

2024 年9月 26 日 第 55 回研究報告会 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日はあいにく暑さがぶり返す中、また、皆様それぞれにお忙しい中、本日も大変多くの皆様に会場にご来場いただき、また、オンラインでご視聴いただき、真にありがとうございます。

前回の研究報告会を本年1月に開催してから、半年以上が経過しました。当研究所の中期的な活動方針については、前回の開会挨拶の中で申し上げましたので、ここではそれを繰り返すことは避けますが、内外の動向と課題を見極めつつ、本年度後半も、皆様との交流・連携を深め、持続可能で活力に満ちた交通運輸及び観光の実現に貢献すべく、研究調査、セミナー・シンポジウム、コンサルティング等の活動に重点的に取り組んでまいります。

さて、本日は、少しお時間をいただいて、前回の研究報告会後に実施した国際的な活動の一端をご紹介しますと思います。

まず、国際学会などについては、6 月末からポルトガルのリスボンで開催された国際航空輸送学会(ATRS)の第27回世界大会において、当研究所から屋井所長ほか 3 名の研究員がそれぞれ研究発表を行うとともに、最優秀論文として選定された中国の研究者の論文に対し、昨年に引き続き、私からJTTRI Best Paper Award を授与しました。

この他、5 月にアジア開発銀行の本部があるフィリピンのマニラで開催されたアジア太平洋運輸フォーラム及びドイツのライプチヒで開催された国際交通フォーラム(ITF)交通大臣会合、並びに先月下旬にアイルランドのダブリンで開催された国際地理学大会で、それぞれ当研究所の研究員1名が研究発表を行いました。

3 月の国際海事機関(IMO)海洋環境保護委員会(MEPC)第 81 回会合では、当研究所が共同研究調査として実施した「海運 CO2 排出削減のための燃料転換に関する調査研究」の成果が、議論のベースとなる情報提供文書として提出・紹介され、同委員会における議論に貢献しました。

次に、海外の研究機関との交流については、新たに韓国の海洋・水産開発

院(KMI)及び高麗大学海上法研究センター(KUMLC)と、当研究所及び日本海事センターとの間で、3月26日に東京で、相互交流及び研究協力を目的とする了解覚書(MOU)を締結しました。これに基づき、同日に第1回目の交流セミナーを、そして、今月5日には、韓国・釜山において、第2回目の交流セミナーを開催しました。それぞれ当研究所の研究員からも研究成果を発表し、意見交換を行いました。第3回目の交流セミナーは、来年韓国で開催する予定です。

また、韓国交通研究院(KOTI)とは、11月27日に日本において第19回目のジョイントセミナーを開催すべく準備中です。

中国との間では、7月30日に東京において、中国国家発展改革委員会総合運輸研究所(ICT)と第27回日中運輸経済技術交流会議を開催し、当研究所からも3名の研究員が研究成果を発表し、意見交換を行いました。

米国との間では、4月に、ワシントン D.C.において、米国公共交通協会(APTA)と共催で、日米鉄道シンポジウム2024を開催しました。また、来月17日には、ワシントン D.C.において、ジョンスホプキンス大学ライシャワー東アジア研究センターと共催で「経済安全保障のためのシーレーンの安全確保とサプライチェーンの強靱化シンポジウム2024」を開催する予定です。

タイとの間では、タイ観光スポーツ省等と連携して、持続可能な観光の実現等のための日タイ観光WGにおいて、当研究所の奥田専務が共同議長となり、本年5月及び8月に、それぞれ第2回、第3回のWGをバンコクで開催し、議論を継続しております。

ベトナムとの間では、ベトナム観光開発研究所と共催で、来月2日に、第2回日越観光・人的交流イベントをオンラインで開催する予定です。このイベントは、オンラインによりASEAN各国にも配信します。

日本国内においては、3月にアジア交通学会(EASTS)主催、当研究所協賛で東京で開催された特別セミナーにおいて、韓国 KOTI のOH院長、当研究所の屋井所長など歴代の EASTS 会長によるパネルディスカッションが行われました。

5月には、第4回 JTTRI グローバルセミナーを、シンガポール陸上交通庁チュア副長官の参加を得て開催しました。

このほか、3月には、デンマーク国民議会運輸委員会一行が当研究所を訪れ、当研究所が実施した高齢者モビリティに関する研究の内容を中心に意

見交換を行いました。また、同じく 3 月には、フィリピン運輸省ロントック次官ほか鉄道訓練センター一行が来訪されました。

こうした諸活動の合間を縫って、私や奥田専務がそれぞれ、米国、東南アジア、インドなどを訪れ、相手国政府の要人や官民の交通運輸・観光関係者と会談を重ねており、併せて、本日はご紹介しませんでした。米国のワシントン国際問題研究所(JITTI)及びタイの ASEAN インド地域事務所(AIRO)の様々な活動を通じて、当研究所と主要国との関係の構築・強化に努めています

以上、ここ半年余りの当研究所の主な国際活動について、かいつまんでご紹介いたしました。

今後とも、海外の主要国や国際学会等との連携・協働を普段に図りつつ、当研究所の活動の質をグローバルなレベルで高めていきたいと考えています。

さて、この研究報告会は、今回スタイルを少し変えました。冒頭に屋井所長から、当研究所における現在の研究調査の全体像と概況についてご紹介します。その上で、研究調査の進捗に応じて抽出した 5 件の報告発表を集中して行います。その後、お隣の会場で、ご参加いただいた皆様との懇親を兼ねた意見交換会を開催します。本日の報告発表をはじめ当研究所の研究調査に対する参加者の皆様からのご質問やご意見については、この意見交換会において又はアンケートの中で、自由にお聞かせ頂きたいと存じます。

本日研究成果の報告を行います稲本研究員は 2022 年から、手塚研究員、麻生研究員、渡邊研究員及び廣松主任研究員は 2023 年から、長谷川研究員は本年から当研究所で活動しており、いずれも今回が初めての研究報告会での発表です。覃研究員は、中国の出身で、2021 年から、邱研究員は、台湾の出身で、2023 年から、それぞれ当研究所で活動しており、ともに今回が 2 回目の研究報告会での発表です。

最後になりますが、この場をお借りして、当研究所の活動に対し日頃より手厚くご支援を頂いております日本財団に対し、心から感謝申し上げます。当研究所といたしましては、本年度も諸々の活動を通じて、皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶といたします。